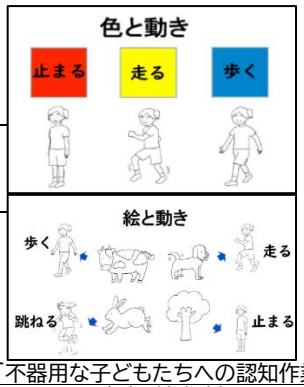
【身体面】

課題名 ： 色か絵か？

1　分野　　✔自分の身体　　物と自分の身体　　人と身体と自分の身体
2　認知機能　　✔記憶　言語理解　注意　知覚　推論・判断
3　ねらい　　外部刺激による動作の切り替えによって注意力を養う。
4　実施例



引用:「不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング」(三輪書店)

⑴　身に付く力	○　掲示物の例 ・　「聞く力」　「見る力」　「集中力」
⑵　生かせる場面	○　想定される場面の例 ・　集団行動で動きをそろえるとき ・　部活動等で指示を聞いて動くとき
⑶　取り組み方	○　教師の説明の例 ①　「この課題は、色や絵に合わせて体を動かす課題です。」 ②　「最初に色と動きを覚えましょう。」 ③　「指示をよく聞いてよく見て、動きましょう。」
⑷　方略(コツ)の確認	○　想定される方略(コツ)の例 ・　頭の中で映像をイメージする。(信号など) ・　先生の声をよく聞くようにする。
⑸　課題の実施	○　実施上の留意点 ・　指示を出す場合は、「色」「絵」と声をかける。 ・　指示がない場合は、前の指示が継続することを伝える。 ○　実施上の工夫 ・　事前に練習し、動きをしっかり記憶する。 ・　スピードをあげる。 ・　「数字」を入れる。 ・　並び方を工夫する。 ・　状況に応じて、シートの提示の仕方を工夫する（モニター、フラッシュカード)。 ⇒ 課題の難易度を徐々に上げる。
⑹　振り返り	○　動きの確認 ・　モニターやフラッシュカードを用いて「色と動き」や「絵と動き」を再確認する。 ⇒ 実態に応じた方法を選択する。 ○　新しい方略(コツ)を確認 ・　子どもたちの中から出た新しい方略を全体で共有する。 ○　まとめ ・　集中した取組を評価する。 ・　子どもたちの工夫に対して価値付けする。(即時フィードバック) ・　次回への意欲付けをする。

▶　この課題が収録されているテキスト

・「不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング」(三輪書店)

課題名 ： 綿棒積み

1　分野　　自分の身体　✔物と自分の身体　　人と身体と自分の身体
2　認知機能　　記憶　言語理解　✔注意　知覚　✔推論・判断
3　ねらい　　時間に注意を向けながら指先をうまく使う力を養う。また、友達と協力して周りの進み具合を見ながら、途中で止める決断力も養う。
4　実施例

⑴　身に付く力	○　掲示物の例 ・　「状況判断力」　「注意力」　「集中力」　「細かな作業をする力」
⑵　生かせる場面	○　想定される場面の例 ・　用具（ハサミ、のり、粘土等）を使った作業をするとき ・　球技の試合（ドッジボール等）で周囲の状況を判断するとき
⑶　取り組み方	○　教師の説明の例 ①　「この課題は、綿棒を交替で１本ずつ『井』の形に積み上げる課題です。」 ②　「綿棒を高く積み上げているペアの勝ちです。」 ③　「『よーい、はじめ。』の声でスタートします。」
⑷　方略(コツ)の確認	○　想定される方略(コツ)の例 ・　両手で綿棒を置く。 ・　利き腕で綿棒を置く。 ・　真ん中の方に作る。 ・　ペアの人が置いている間に、周りの様子を確認する。 ・　綿棒を近くに置いて積む。
⑸　課題の実施	○　実施上の留意点 ・　計時の設定(個人・学級)の有無を声かけする。 ・　周囲を観察するように声かけする。 ・　１５秒毎に時間を伝え、最後の１０秒はカウントダウンする。 ○　実施上の工夫 ・　3～６名程度のチーム ・　机の配置を考える。 ・　本数を増やす。 ⇒ 課題の難易度を徐々に上げる。
⑹　振り返り	○　積み上げた本数の確認 ・　ペアもしくはグループで確認する。 ・　「井」形を一旦崩して、数える。 ⇒ 実態に応じた方法を選択する。 ○　新しい方略(コツ)を確認 ・　子どもたちの中から出た新しい方略を全体で共有する。 ○　まとめ ・　集中した取組を評価する。 ・　子どもたちの工夫に対して価値付けする。(即時フィードバック) ・　次回への意欲付けをする。

▶　この課題が収録されているテキスト

・「1日5分！　教室で使えるコグトレ　困っている子どもを支援する認知トレーニング122」(東洋館出版社)

課題名 ： 姿位模倣

1　分野　　自分の身体　　物と自分の身体　　✔人と身体と自分の身体
2　認知機能　　✔記憶　言語理解　✔注意　知覚　推論・判断
3　ねらい　　相手の姿位を記憶し模倣することで、静的・動的な動作の記憶方法を学ぶ力、注意して観察する力、身体を使った作業や仕事を身に付ける力を養う。
4　実施例

⑴　身に付く力	○　掲示物の例 ・　「見る力」　「注意力」　「覚える力」
⑵　生かせる場面	○　想定される場面の例 ・　ダンスで動きを覚えるとき ・　スポーツで正しいフォームを身に付けるとき
⑶　取り組み方	○　教師の説明の例 ①　「この課題は、動きをまねる課題です。」 ②　「先生が動作をするので、よく見て覚えましょう。」 ③　「覚えた動作をしましょう。」
⑷　方略(コツ)の確認	○　想定される方略(コツ)の例 ・　右と左を意識する。 ・　写真のように頭の中で覚える。 ・　向きや動作を言葉で表して覚える。
⑸　課題の実施	○　実施上の留意点 ・　前後左右など方向や体の部分を言語化する。 ・　相手の立場になって模倣する。 ・　教師が指示を出した後に一斉に模倣させる。 ○　実施上の工夫 ・　レベルを段階的にあげる。 ・　子どもが教師役をする。 ⇒ 課題の難易度を徐々に上げる。
⑹　振り返り	○　解答の確認 ・　子どもが動作を言葉で説明する。 ・　教師が、部分ごとに動作を言葉で説明しながら確認する。 ⇒ 実態に応じた方法を選択する。 ○　新しい方略(コツ)を確認 ・　子どもたちの中から出た新しい方略を全体で共有する。 ○　まとめ ・　集中した取組を評価する。 ・　子どもたちの工夫に対して価値付けする。(即時フィードバック) ・　次回への意欲付けをする。

▶　この課題が収録されているテキスト

・「1日5分！ 教室で使えるコグトレ 困っている子どもを支援する認知トレーニング122」(東洋館出版社)
・「不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング」(三輪書店)

課題名 ： 姿位伝言

1　分野　　自分の身体　　物と自分の身体　　✔人と身体と自分の身体

2　認知機能　　記憶　✔言語理解　✔注意　知覚　推論・判断

3　ねらい　　提示された姿位を言語だけで伝えることで、身体部位の働きや使い方の言葉による表現力、観察力を養う。

4　実施例

⑴　身に付く力	○　掲示物の例 ・　「見る力」　「注意力」　「覚える力」
⑵　生かせる場面	○　想定される場面の例 ・　体育の学習で友達に動きをアドバイスするとき ・　ダンスで動きを教えるとき
⑶　取り組み方	○　教師の説明の例 ①　「この課題は、見た動きを言葉で伝える課題です。」 ②　「先生が動作をするので、よく見て覚えましょう。」 ③　「覚えた動作を相手が分かるように伝えましょう。」
⑷　方略(コツ)の確認	○　想定される方略(コツ)の例 ・　右と左を意識する。 ・　写真のように頭の中で覚える。 ・　相手に伝わるように分かりやすい表現で伝える。
⑸　課題の実施	○　実施上の留意点 ・　他の子どもの動作が見えないように、配置を考慮する。 ・　動作が間違っていれば、もう一度伝え直す。 ・　教師が指示を出した後に一斉に模倣させる。 ○　実施上の工夫 ・　リハーサルをして再現する。 ・　課題を上肢のみで行う。 ・　イメージを伝えるようにする。 例：「両手を傘のように開く」「左足をあげて命のポーズ」 段階的に支援を減らす。 課題の難易度を徐々に上げる。
⑹　振り返り	○　解答の確認 ・　伝言役の子どもが正しい動作をして見せる。 ・　教師が解答を提示する(動作、モニター)。 ○　新しい方略(コツ)を確認 ・　子どもたちの中から出た新しい方略を全体で共有する。 ○　まとめ ・　集中した取組を評価する。 ・　子どもたちの工夫に対して価値付けする。(即時フィードバック) ・　次回への意欲付けをする。

▶　この課題が収録されているテキスト

・「1日5分！ 教室で使えるコグトレ 困っている子どもを支援する認知トレーニング122」(東洋館出版社)
・「不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング」(三輪書店)